

令和8年

3月 | 日・2日

とき 1日:午前10時～午後9時

2日:午前10時～午後8時

とこ 三池神田脇 “初市街道”

※1、2日は午前10時から午後9時まで通行止め

たこ焼

本舗

# 春を呼ぶ 三池初市

三池初市が  
末永く継承される事を願い、1枚1枚手作りしました  
初市開催のために、1枚500円でご協賛を  
お願いしております

ジャー坊も  
来るよ!



3/1 17:00  
三池初市開催式典

3/1・2 路上イベント

雨天などの都合によりプログラムが変更になる場合があります。また、出演予定時間は目安であり、進行状況により前後することがあります。ご了承ください。

楽しいイベント  
盛りだくさん!

《西鉄バス》

◆「三池中町」行きは「神田脇」で下車

駐車場は羽山台小学校運動場

※数に限りがありますので公共交通機関をご利用ください

当日、手形を会場本部へお持ちいただくと、干支の印を  
押して初市タオルを差し上げます。

また、福引き付きあめ玉のつかみ取りも!

更に違う干支の印が押されている手形6種類を  
お持ちいただくと、記念品(特製バスタオル)を差し上げます。

## 三池初市

「三池初市」は主神妙見さん、恵比寿さん、薬師さんを敬慕する地域住民のお祭りであったともいわれるが、現在では宗教的色彩は非常に薄い。近郊の住民の物々交換から始まり、交流の輪が次第に広がり、この地域の人々の生活の中に溶け込み、生活物資調達と交流の場として定着していくものと考えられる。

三池の町に住む人々は近郊の親戚や知人などを家に呼び、接待する習慣があり、それを年に一度の楽しみとした。この市の始まりは250年前とも300年以上前ともいわれている。

また、「三池初市」は九州最大級の春の市といわれ、約200軒の移動商、植木商の人々がこの日この地に集い、その後九州一円に散って営業を始める。各地でそれは「初市」と呼ばれているが、「三池初市」はその歴史と規模から「初市」中の「初市」と言うべきものである。

「花てぼ」や「しょうけ」、「みそこし」に代表される竹細工や鍬や包丁などの刃物は、昔の生活必需品の市であった名残を示すものである。また、伝統玩具「キジ馬」や戦後工夫された「竹虎」は少なくなったが、創作竹細工「ミニ大蛇山」は新しい名物として人気が出てきた。

時代が移り中身が変わろうと、何よりも「三池初市」を楽しみにしているのは子ども達である。2001年からは地元の学校の児童・生徒などが発表の場として参加するようになり、「三池初市」は一気に活気づいた。それに伴い地域の組織を総動員した三池初市実行委員会が結成され、いわゆる「三池の里の祭り」として21世紀を期して生まれ変わったのである。

近年では、さらに発達した「三池初市」の姿を見ることができ。三池初市実行委員会ではこの祭りを、地域の祭りに留めることなくまちづくり、人づくりの一環として地域に貢献する存在として残していくと、目標を掲げている。

参考図書 『大牟田の宝物100選』

